

福島原発事故から8年...

中林 参院鳥取・島根 選挙区予定候補から福島を視察・調査

日本共産党島根県委員会では4月24、25の両日、東京電力福島第1原発事故から8年になる福島県内の現状を視察しました。中林よし子



一行は原発問題住民運動全国連絡センターの伊東達也筆頭代表委員らの案内で、いわき市から南相馬市にかけて被災地の実情を調査。伊東さんは「帰還宣言」が出されても戻る人が少なく、地域社会がまともに機能できない」「政府はオリンピックを『復興五輪』と位置づけ、賠償打ち切りや避難者支援の打ち切りを露骨に進めている」と批判しました。

富岡町の帰還困難区では、線量計の針が振り切れるほどの放射線量があり、家々の玄関が鉄格子でふさがれていたり、中学校の体育館には事故当時の「卒業証書授与式」の看板が掲げられたままとなっているなど、町の実情を見て回りました。

南相馬市のボランティアセンターでは被災住民と懇談し、「被害は終わるどころか、先の展望が見えず、気持ちほど

「戦い」は人々の努力で終わらせることができるが、放射能被害は人間の力が及ばない」「ぜひ国会に出て原発ゼロを実現してほしい」など切実な訴えが寄せられました。

県庁では党県議団や県当局と復興計画や廃炉・事故収束作業の進捗状況などについて意見交換しました。

中林氏は「被災地の苦しみは今なお複雑で深刻さを増しています。福島島の現状を鳥取・島根県民に知らせ、原発ゼロに向けた運動をさらに進めます」と話しました。

くさん出会いました。岡山の青年Sくんは投票日当日に友達が出発して行っていないことがわかり、急いで車で友達の家に迎えに行き投票所に連れていったそうです。中々できることではありません。そんな一人ひとりの「かけがえのない一歩」「勝利への執念」を急いで全党で共有したい。

統一地方選を終えた翌日、国会で豪雨災害対応の質問に立ったのは仁比聡平参院議員でした。現場の実態を繰り返し示し、現実を政治を動かしてきた、文字通りの命をつなぐ議席です。直ちに参院選本番モードへ、比例7議席、仁比再選必ず。

(5月1日付)

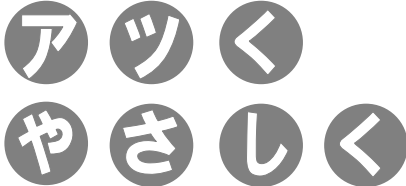
ただちに参院選本番モードへ

3月末、前半戦告示の頃はまだコートを着ていたのが、後半戦最終盤には上着を脱ぎ、シャツの袖をまくって



院議員 衆議院 前議員

大平よしのぶ



演説をし、気づけば真つ黒な顔に。中国地方の統一地方選では絶対に落とすはならない宝の現職の議席を失い「今度こそ！」とかつてない頑張りど期待がありながら議席獲得へ僅かの差で届かず、という選挙区がいくつもありません。みんな誰もが認める大奮闘をしてきた方たちばかり。本当に悔しくてなりません。「どうすれば勝てるのか」と日々思いをめぐらせています。

もちろん悔しいことばかりではありません。広島県坂町は昨年の7月豪雨で甚大な被害のあった自治体でしたが、前回選で党議員

初めでの電話かけ、アナウンスデビュー、友達に勇気を出して支持をよびかけた一歩をふみだす人たちの姿にた

女性後援会の奮闘が原動力

「なかよし会」。中林よし子後援会(後に日本共産党島根県後援会)の略称である。中林よし子当選の原動力となった。中でも、女性後援会の奮闘は抜き出ていた。病気で衆院候補を中林さんに代わる事になった金森和子さんは、かつて「よし子さんの当選は、長い間の婦人のねがいがかえり燃えて勝ち取ったもので、婦人の歴史と希望にこめられた大切な宝物」と喝破した。

は、運転手からすべてを女性で揃えた宣伝カーを仕立てて、農村部や山村、漁村へと繰り出していった。「女性後援会のとりにくみに男たちも刺激を受けて、オレンジスカーフを首に巻いてよし子ポスターを持ち、街頭に立ちました。初めは恥ずかしかったけど、すぐ慣れました」と高齢の男性は若かった当手を振り返る。

急ぎよ国会秘書として上京したが、よし子さんの初当選で、全国でも日本共産党衆院議員がい

老練な政治家で占められていた島根選挙区に、若い女性候補が名乗りをあげたことに歓迎し、真つ先に反応したのが、島根の女性たちだった。その後援会活動は、それまでの枠を破った実自由奔放な活動だった。

よし子さんのキャッチフレーズを「島根の太陽」「くらしのよし子」として売り出し、太陽をもじって「ひまわりバッジ」が作られた。さらに、「ひまわりバッグ」に「よし子せんべい」。あげくには「よし子音頭」まで作られ、カセットテープに「よし子音頭」を流しながら、シンボルカラーのオレンジスカーフを首に巻いた女性たちが街角へと繰り出した。また、ある時

元衆議院議員(4期9年)

よし子さんを語る

元中林よし子秘書 吉川 晴雄 (5)

後で聞いたが、これはよし子さんが自ら希望して「科学技術特別委員会」に入ったため、島根からの新人秘書を同委員会のベテラン議員の瀬崎室で一年ほど鍛えた後に、中林室へ戻すという話だったという。

初当選もわずか7か月で解散

よし子さんは「科学技術とは無縁だったが、島根原発を追及するため選択した。難解な用語や内容に悪戦苦闘した」と回想する。それは新人秘書の我が身にとっても同じだった。しかし、それも長続きはしなかった。よし子さんが国会へ出て7か月、秘書になって2か月後の5月にいわゆる大平内閣による「ハプニング解散」となり自民党の党利党略の衆参ダブル選挙による混乱の中、よし子さんは涙を飲んだ。(つづく)



初当選後、国会請願のデモへ党議員団の一員として激励するよし子さん。(瀬長亀次郎、林百朗、新人の則武真一の各議員とともに)